

新年を迎えて



代表取締役社長 野澤 俊太郎

新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様、ならびにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

亥年にあたる昨年、能登半島沖、三重県中部、中越沖地震の被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。今年こそ平穏無事な年でありますようお願い申し上げます。

奇しくも『偽』の年と表現された昨年でしたが、名高い多くの老舗が、不祥事によりその信頼を一夜にして失墜し事業継続をも危うくするなど、企業人として身の竦む思いを禁じえない年でもありました。

長期低成長経済を経て、気になる格差を伴いながらも何とか成長が維持され、最近の話題でも再生医療の研究分野で、皮膚など体細胞からクローン技術を使わなければ不可能だと思われていたES細胞に似た細胞(マウス)が作成され、これからの人の再生医療に利用できるのではないかと希望に満ちた成果が報じられるなど、国民の間にもほのぼのと未来を語り合える明るい出来事にも恵まれました。21世紀の子年の新年を迎え、是非にも明るく輝かしい年になるよう期待しています。

わが国の経済環境にあっては、足元では中国をはじめとする新興国の高い成長がもたらす輸出関連企業群の好調さが持続し、景気は堅調さを維持していると言わ

れるものの、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題を契機とする米国景気の減速懸念の台頭、欧米金融機関を中心とする巨大な損失額のスパイラルな増加、高値で推移を続ける原油価格、円高ドル安に転じた為替相場など、わが国のプラス成長を脅かしかねないリスク要因が存在し、我々にあっても少なからずその影響を受けておりまだまだ油断できぬ状況と申せましょう。

弊社では、関東グループの総合展開力の強化、技術力と総合力の結集、CSRの取組み強化、将来を見据えた投資の断行、海外戦略の展開らの施策を掲げ、社員一丸となり邁進してまいりました。長年のやり方・考え方に囚われず、発想の転換を図り、新しいものに挑戦しようとする新たな時代への心構えであります。「我々は未来を考え、新しいものへの挑戦を図り、社会に対し積極的に貢献する」と定めた弊社経営理念は、社会的責任を形にしていく弊社のCSR活動の精神でもあり、より具体的な活動として今後とも積極的に展開してまいります。科学の進歩を支える化学薬品メーカーとして、業界の先駆者たる誇りを持ち、最上の品性と、最高の権威と、最大の努力をもって新たな子年がよき年になりますよう総力を結集し新たな年にチャレンジいたします。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。